

管理局とどろかす怒りのシュプレヒコール

不当処分粉碎。反動秋山局長追放



かつてない結集と熱気で、「不当処分粉碎」波闘争に突入！（6月2日・同前）

「解雇処分を粉碎し、必ず勝利する！」
 ー 布施組織部長が断固たる決意表明！

続いて「処分のため処分」として、選別的な解雇処分をかけられた布施組織部長が被処分者を代表して、当局と反動分子への激しい怒りを叩きつけ、勝利の日まで最先頭で闘いぬく決意を表明した。「かつてマル生攻撃の時、私は激しい怒りを感じて組合運動に身を投じた。しかし今回の処分攻撃には、それ以上の腹の底からの怒りがこみ上げてくる。三里塚ジェット闘争を必ず勝利させ、三十五万人体制をぶち破り、このデタラメな処分を粉碎し必ず勝利してみせる！ 私はハンドルを必ずわが手に再び握り返す！ 団結して前進しよう」との布施組織部長の怒りを秘めた力強い感動的な決意に万雷の拍手と声援が送られ、いやが上にも闘志をかきたてる。出身支部である千葉運転区永田支部長が全支部を代表して決意を表明し、最後に吉岡教宣部長（停職十二ヶ月の不当処分ノ）の音頭で千鉄局をゆるがす大シュプレヒコールをもって激しい抗議のデモが千鉄局を包んだ。五百八十六名というかつてない大結集と熱気の中で、第一波（三日間減産闘争）を皮切りに、全面的非協力闘争をはじめとする長期強靱な闘いが切っておとされたのである。集会は、関川委員長の音頭で団結ガンバローを三唱し、それぞれの闘争現場へと散会した。



決意表明した布施組織部長

6.2 第一波闘争突入 総決起集会 に五六六名が結集！

「不当処分粉碎・反動秋山局長追放 六・二総決起集会」は、折からの雨をもものともせず、定刻前より続々とつめかけた組合員で管理局前庭が埋め尽される中、十八時十分、水野執行委員の司会で開始された。冒頭あいさつに立った関川委員長は、かつてない悪らつな処分攻撃に怒りを満面に表わし、徹底的に闘い勝利する決意と千四百の一層の団結を訴えた。県労連を代表して清水事務局長が「例を見ぬ悪らつさ。県労連も重大視して共に闘う」と決意表明した。かけつけた三里塚芝山連合空港反対同盟を代表して石井武実行役員より「私は当日現場で目撃していた。本当にめちゃくちゃな処分だ。同盟も総力あげてこれと闘う。被処分者を包んで最後まで闘おう」と怒りをこめて決意をのべた。続いて支援共闘を代表して浅田光輝氏より、全国的な一大社会運動をまき起していく、とのあいさつをうけたのち中野書記長から「基調報告・第一波闘争

全支部代表含め、抗議交渉行わる

鋭い追及に「くじけもくじけ」た 居直るのみの国鉄当局に怒り

この総決起集会に先だち、十五時より千鉄局同交室にて、本部執行部と全支部の代表約四十名は、抗議交渉をもって、鋭く当局を追及した。社会的・常識的にも全く整合性のない選別的な不当処分であるが故に、マスコミ等を動員して「解雇者なし」の一方的宣伝で、今回の動労千葉への処分攻撃の実態をひたかくしにしようとしている当局の卑劣・邪悪な姿勢に対し、次々と鋭い追及がなされた。当局側からは、藤田総務部長・進士運転部長ほかが出席したが、特に終始答弁に立った反動秋山局長の代弁者藤田総務部長は理路整然と追及されるたびに、次々とこの処分の「意図的」選別的「デッチ上げ」の本質を自己暴露してしまい、遂に「今までに前例のない処分であることは確か」「旗竿の半数持ち込みを認めた。あれはシンボル……竹竿で二、三人がワキからつきかかるのを見たが、誰を突いたのかは現認していない」などと言明せざるをえなくなった。そして、「成田・新小岩・四・一七その他でのオルグ団の破壊行為等」について追及されるや、「個々の問題には答えられな

「現認してない」と逃げまわり、最後は「とにかく、厳正・公平・中立である」と官僚的にくしかえすのみであった。

全員は激しい怒りを更に新たにし、長期強靱に一丸となって闘いぬいていく決意を更にうち固めて、抗議交渉をうち切った。

全ての組合員の皆さん、全ゆる点でデタラメづくしのこの不当処分は必ず粉碎できる。長期強靱な非協力闘争体制をもって、この歴史的な反処分闘争を堂々と勝ちぬいていくようではないか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

日刊
動労千葉

80.6.4
 NO.446

国鉄千葉動力車労働組合
 千葉市要町二一八（動力車会館）
 電話二二五八一九（公衆電話三三二七二〇七）